



インターネットでの情報提供			
提供予定日		10月19日(土)	
平成25年10月18日(金) 県政記者クラブ配布資料			
担当課	担当	担当者	電話番号
国際戦略推進課	総括管理監	高橋 洋子	直通 058-272-8173 内線 2351

「飛騨・美濃じまん海外戦略プロジェクト」 知事の海外訪問（インドネシア、シンガポール、タイ、台湾）について（5）

本県では、平成21年度より、官民が協働し主に成長著しいアジアをターゲットとして「観光・食・モノ」を一体化した総合的な岐阜県PRを展開し、海外誘客と県産品の輸出向上につなげる「飛騨・美濃じまん海外戦略プロジェクト」を推進しています。

この取組みの一環として、知事が民間事業者と共に、インドネシア、シンガポール、タイ、台湾の4ヶ国・地域を訪問しましたので、その活動状況を下記のとおりお知らせします。

記

【日 程】 平成25年10月11日(金)～18日(金) 8日間

【目 的】 観光誘客、県産品・農産物輸出の促進

【主な内容（知事日程）】

<インドネシア>

- ・在インドネシア日本国大使公邸における岐阜県交流会開催（観光、県農産物および地場産品紹介）
- ・インドネシアで初開催の観光見本市「ジャパン・トラベル・フェア」参加
- ・著名デザイナーと現地旅行会社が主催する岐阜県PRイベントに出席

<シンガポール>

- ・飛騨牛海外推奨店認定式（高級日本食レストラン「葵匠^{きしやう} Ki-sho」）
- ・格安航空会社 AirAsia と オンライン旅行会社 Expedia の合弁会社「AirAsiaExpedia」訪問

<タイ>

- ・高級ホテル日本食レストラン「きさら」での岐阜県・飛騨牛フェア開催
- ・県内からの進出企業関係者等との意見交換

<台湾>

- ・台湾旅行博「ITF」視察、観光事業者との面談
- ・台湾政府外交部との面談

【民間等からの参加者】

50名（農業・食品関係者、地場産品、蔵元関係者、観光事業関係者、市町村関係者、岐阜県議会議員など）

<10月17日(木) 台湾>

■台湾政府外交部との面談、夕食懇談

○日時

10月17日(木) 面談 17:30~18:30 (現地時間)
夕食懇談 18:45~20:45 (現地時間)

○場所

面談 亜東関係協会
夕食懇談 リージェントタイペイ (晶華酒店)

○面談者

亜東関係協会
李嘉進 会長、何坤松 経済部長、陳志任 総務部長、王瑞豊 文化部長、林雍凱 総務部事務官

○出席者

知事、村下貴夫 県議会副議長、玉田和浩 県議、県観光交流推進局長、県観光課長

○概要

- ・知事は、台湾政府の日本担当機関である亜東関係協会を訪問し、李会長及び各分野の担当部長と意見交換を行った。
- ・李会長の挨拶に続き知事が挨拶を行い、その後、亜東関係協会の各部長から、文化、経済等に係る台湾と岐阜県との今後の交流の方向性等に関して意見が述べられ、意見交換を行った。
- ・その後会場を移動し、夕食をとりながら、引き続き今後の連携強化等について意見交換を行った。

○主な発言

[李会長]

- ・2001年に岐阜県を訪れたことがある。自然、歴史、文化があり素晴らしいところで、また訪問したい。「清流の国」は岐阜県を表現する言葉として素晴らしい。
- ・美濃市と台湾の高雄市美濃区との交流が盛んなように、今後は岐阜県の多くの自治体との交流関係が進むことを望んでいる。
- ・観光交流はもちろん、高校生などの青少年交流、高校野球等のスポーツ交流、経済や文化交流等、幅広い分野で岐阜県と台湾との交流が進むことを望む。台湾人は日本が大好きであり、亜東関係協会としても応援する。

[亜東関係協会の各部長]

- ・台湾人は野球が好き。スポーツ・教育分野で、野球で岐阜県と台湾の都市との交流を進めたらどうかと考える。当交流は岐阜県への台湾からの観光誘客にも寄与する。
- ・今年9月に、熊本県と高雄市が交流協定を締結した。岐阜県では、美濃市と高雄市美濃区が交流しているが、県レベルでも実施できないか。例えば、台中市は人口が219万人で、岐阜県と同じ規模でバランスが良い。
- ・日本の各県が台湾からの観光誘客等を狙ってPR活動を行っている。他県と違う手法でPRすることがより効果を出すためには必要。自治体間で交流を行う場合は、岐阜県も自分を売り込みたいわけだが、同じく相手方も自分を売り込みたいわけで、交流の相手を見定めて、行政も力を合わせて、お互いが接点を見出すことが必要

[知事]

- ・知事として台湾を訪問するのは今回が初めて。しかし、旅行博ITFへの出展やビジネス交流等、県としてはこれまでも台湾との交流を続けてきた。最近では、中部地方全体を「昇龍道」と呼び台湾からの観光誘客を促す取組みに本県も参加している。
- ・岐阜県への外国人観光客(宿泊者数)は、台湾からが一番多く、去年は6万9千人で2位の中国の約2倍。1年半後には新幹線が長野から富山と金沢につながり、本県へは名古屋経由でなく富山経由でも早く入ることができるようになる。より多くの台湾の方に訪問いただきたい。
- ・本県と台湾との交流について、いろいろなヒントをいただいた。日本中が台湾に注目する中で、本県

らしいやり方で、県議会とも相談しながら、具体的な提案をお持ちできればと思う。

<10月18日(金) 台湾>

■台湾旅行博「ITF」視察と観光事業者との面談

○日時

10月18日(金) 9:00~11:15 (現地時間)

○場所

台北世界貿易センター

○出席者

知事、村下貴夫 県議会副議長、玉田和浩 県議、県観光交流推進局長、県観光課長

○行事について

◇開催期間 10月18日(金)~21日(月) 4日間

◇内容

- ・世界各国の観光局、地方自治体・機関、台湾旅行会社、航空会社、旅行メディア等が出展し、期間中、約26万人の入場者を見込む台湾最大の旅行博。今年で21回目の開催
- ・日本からの参加は、国(観光庁)が日本ブースを設置するとともに、40の自治体や民間団体が参加。中部エリアからは、岐阜県関係のほか、中部広域観光推進協議会、三重県、長野県、浜松市、ながの観光コンベンションビューローが出展
- ・岐阜県ブースでは、ミナモが「清流の国・ぎふ」をPR
- ・岐阜県ブースと飛騨高山ブースでは、県観光連盟、飛騨・高山観光コンベンション協会、飛騨市、及び県内の民間観光事業者が各観光地・施設等をPR

○概要

- ・知事は、岐阜県、高山、中部広域観光推進協議会のブースを訪問し、各担当者を激励するとともに、岐阜県ブースにおいて、本県への旅行商品を販売している台湾の旅行会社4社の幹部と面談し、現状を聞くとともに、本県との連携の継続・強化について依頼した。
- ・また会場には、岐阜県のメディアも取材に訪れており、知事はインタビューに対応した。
- ・知事は、村下貴夫県議会副議長、玉田和浩県議とともに、台湾の馬英九総統をはじめとする各国のVIPが参加するオープニングセレモニーに出席した。また知事は、馬総統など20名程度が参加するテープカットと記念撮影に日本代表の1人として参加した。(日本からは知事と交流協会の佐味祐介副代表の2名が登壇)
- ・セレモニーの後は、岐阜県ブースや台湾の旅行会社ブースを再度訪問し、関係者と面談した。

○会場の様子

- ・一般の消費者が入場する12時前に知事等は会場入りしたが、既に関係者等で会場は活気に満ちていた。
- ・中部地域の各出展者は、「昇龍道」の共通ロゴを各ブースに設置し、中部一体となって地域のPRを行っていた。
- ・台湾の旅行会社関係者が情報を求めて各ブースを訪問しており、担当者は開場前から積極的にPRを行っていた。

○台湾の旅行会社の主な発言

- ・岐阜県は日本の観光地の中でも有名。魅力ある観光地が多いため、今後も旅行者を送り続けたい。
- ・中部地域全体でのPRもわかりやすくよい。地域全体を売り込むことは、真ん中に位置する岐阜県にとっても有益だと思う。
- ・今後も継続的にPRすることが重要。ITFにも継続出展してほしい。

■公益財団法人交流協会台北事務所代表との昼食懇談

○日時

10月18日（金）12：00～13：30（現地時間）

○場所

點水樓南京店

○面談者

交流協会

樽井澄夫 代表、佐味祐介 副代表、岡田健一 総務部長 他2名

台北市日本工商会

馬場高一 常務理事

○出席者

知事、村下貴夫 県議会副議長、玉田和浩 県議、県観光交流推進局長、県観光課長

○概要

- ・知事は、日本の台湾担当機関である交流協会の樽井代表、台北市や近郊に事務所を有する日本法人や日本人を会員とする台北市日本工商会の幹部で岐阜市出身の馬場常務理事等と昼食懇談を行った。
- ・知事は、台湾の各種事情について話を聞くとともに、本県の魅力（飛騨牛、農産物等）について説明を行った。また、台湾からの観光客が本県を訪れる外国人旅行者の中で一番多いこと等についても説明した。



亜東関係協会にて記念撮影



台湾旅行博「ITF」 オープニングセレモニーにおいて、知事は日本代表の一人としてテープカットを実施



台湾旅行博「ITF」岐阜県ブース